

地震による飲料水・食料不足

参考：厚生労働省「健康のために水を飲む講座」

Q子：4月に発生した熊本地震関連のニュースを毎日見ますが、改めて災害って怖いと思います。

博士：被災地では避難生活を送る方々の健康を守るための対策が重要になってくるよ。

地震が発生すると、しばらくの間、電気、ガス、水道は止まり、道路が通れないため支援物資も届かず、数日間は飲料水・食料が入手できなくなる。また、様々なストレスや、トイレが整備されないことが原因で、水分をとる量が減りがちになる。

一方で、体の約60%は水分できており、水分摂取量が20%減るだけで死に至ることもあるから、しっかり対策をしてこれらのリスクを低減させることが大切じゃ。

博士。
マイペース型。



ネコ。
しゃべれる。



Q子。助手。
いつも前向き。

飲料水・食料の備蓄は十分ですか？

Q子：わたし、日頃からできる対策について、ちょっと調べてみました！

自宅に飲料水と食料を3日分以上備蓄しておくといいんですよ。

博士：そのとおり。備蓄はできるだけたくさんあると安心なんじゃ。

自宅が損傷を受けた場合でも家屋から備蓄物資を取り出せる場合もあるからね。

「自分の命は自分で守る」という気持ちが大事じゃよ。

ちなみに、3日分(1人)の備蓄の目安は次のとおりじゃ。

参考：総務省消防庁「わたしの防災サバイバル手帳」、
農林水産省「緊急時に備えた家庭用食料品備蓄ガイド」



一人一日あたり3リットルの飲料水が必要と言われているじゃ。飲むだけでなく、「洗う」「火を消す」「トイレで流す」など、いろいろなところで使う必要があるじゃ。

- 飲料水 (9リットル 3リットル×3日分)
- ご飯 (アルファ米) (4~5食分)
- ビスケット (1~2箱)
- 板チョコ (2~3枚)
- 乾パン (1~2缶)
- 缶詰 (2~3缶)



博士：備蓄の必要性は地震対策に限らないよ。

新型インフルエンザの世界的大流行の対策としては、最低でも

2週間分の食料品を備蓄することが推奨されているんじゃ。

Q子：へ～！いつ何が起きてもいいように、早めに備えておいた方がいいですね。

早速、スーパーへ行きます！ えーっと、備蓄しておくものは、

お水とご飯とビスケットと・・・ ついでにアイスクリームも買ってき今日のおやつにしよう。

博士：(どちらがついでなのか、わからないけど・・・) 気を付けて行ってくるんじゃよ～。

備蓄できる食料品は普段から多めに購入し、常に「買い置き」を心がけよう。

とりわけ、高齢者、乳幼児、慢性疾患の方、介護を要する方、食物アレルギーの方へ配慮した食料品は、別に用意しておこう。

特に気温が高いときには脱水状態になりやすい。心筋梗塞やエコノミークラス症候群などの原因にもなるから、こまめに水分をとることは大切なじゃ。



衛生面で備えておきたいもの

参考：首相官邸HP、厚生労働省HP

博士：災害時は流水で手を洗ったり、しっかり火を通したり

することが難しい場合が多いので、食品衛生にも注意が必要じゃ。除菌グッズやウェットティッシュなどの多目的に使える衛生用品も揃えておこう。

マスクを用意しておけば、感染症の流行を防いだり、粉じんから身を守ることもできるね。

簡単に用意できるものを紹介しておくよ。

- 救急用品 (ばんそうこう、包帯、消毒薬、常備薬など)
- マスク
- ウェットティッシュ
- 除菌ジェル・除菌消臭スプレー



衣類などの他の備蓄品もあるし、年に一度はチェックして、新しいものと交換するようにしてニャ。

食品中の放射性物質のリスク



博士：県で行っている、主要な農畜水産物や県内に流通する東日本産の食品の放射性物質のモニタリング検査の平成28年1月から3月の結果をお知らせします。食品の基準値は以下を参考にしてくださいね。

【放射性セシウムの基準値】

(単位：Bq/kg)

食品群	一般食品	乳児用食品	牛乳	飲料水
基準値	100	50	50	10

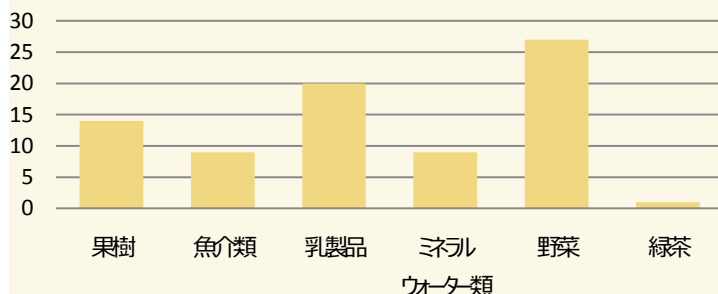
○Bq/kg：「ベクレルパーキログラム」1kg当たりの放射能の量を表す単位。

県内に流通する東日本産の食品の検査結果

品目名	地域	採取日	結果(Bq/kg)
			放射性セシウム
白菜	茨城県	1/18	<3.3
調製粉乳	埼玉県	1/18	<5.1
ホウレン草	茨城県	1/18	<3.5
牛乳	群馬県	1/18	<1.5
ナチュラルミネラルウォーター	静岡県	1/18	<1.4
牛乳	群馬県	1/18	<1.6
みかん	静岡県	1/18	<3.2
ナチュラルミネラルウォーター	群馬県	1/18	<1.5

「<3.3」とは「検出下限値が3.3Bq/kgの検査で、放射性セシウムが不検出であること」を意味します。「3.3Bq/kg未満の放射性セシウムが検出された」という意味ではありません。(検出下限値は測定のために多少変動します)

平成27年度分類別検査実施検体 (全80検体)



平成27年度に検査した80検体について、いずれも放射性セシウムは基準値以下でした。

(※千葉県産さつまいもから1.5Bq/kg (10月)、群馬県産牛乳から1.1Bq/kg (12月)の放射性セシウムが検出されていますが、いずれも一般食品の基準値を下回っていました。)

県内産肉用牛の検査結果

	検査頭数	基準値超過 (頭)
1月合計	742	0
2月合計	799	0
3月合計	880	0

平成27年度に検査した11,495頭について、いずれも放射性セシウムは基準値以下でした。

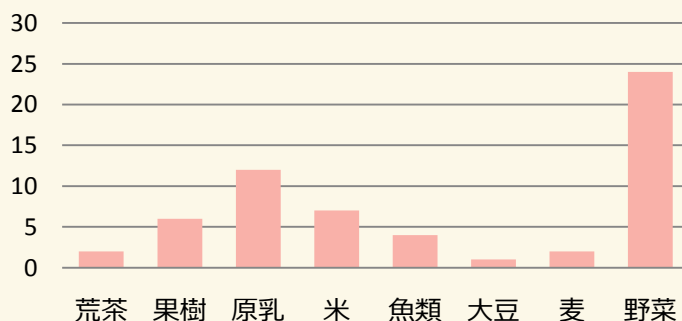


県内産農畜水産物の検査結果

品目名	地域	採取日	結果(Bq/kg)
			放射性セシウム
原乳	飛騨地域	2/16	不検出
原乳	中濃地域	2/17	不検出
だいこん	岐阜 (岐阜市)	3/8	不検出

○野菜：簡易検査(検出下限値25Bq/kg)
○原乳：厚労省通知「食品中の放射性物質の検査法について」(H24.3.15)による

平成27年度分類別検査実施検体 (全58検体)



平成27年度に検査した58検体について、いずれも放射性セシウムは基準値以下でした。

食卓の安全・安心ニュースで知りたいテーマがありましたら、メールかFacebookでお寄せください。
生活衛生課メール：c11222@pref.gifu.lg.jp
Facebookページ「岐阜県食品安全推進室」



最後までお読みいただきありがとうございました。